

# かたりべ 42

豊島区立郷土資料館だより

## 息を合わせて富士元囃子

お囃子は屋台にあがつて

長崎一丁目の長崎神社のお祭りは、九月第二土曜日と日曜日に行われますが、この時、長崎地区では町内ごとに御神酒所を作り、神輿や山車が町内を練り歩くのをご存知でしょうか。神輿の台数や山車の有無は町内によって異なり、また、祭りに花を添える出し物にも違いはありますが、長崎地区二八町会のうちのひとつの要町一丁目では、神輿や山車のほかに囃子方が屋台に乗り、祭り囃子を奏でながら町内を巡っています。



写真1 お囃子は町内の祭りの雰囲気盛り上げる。屋台は牛車を改造して作ったもの。

す(写真1)。

この屋台の上でお囃子をする方たちは、富士元囃子連中の方たちです。演奏する曲目は、屋台、昇殿、鎌倉、四丁目です。この四丁目の次に再び屋台が演奏されます。これを一巡として繰り返されます。富士元囃子は神田囃子の系統といわれていますが、よく知られている神田囃子に比べるとリズムがゆっくりしています。

「そのトンビ取つておくれ！」

お囃子の演奏では、五人の並び方が決まっています。そして各楽器には、面白い名前がついています(写真2)。



写真2 楽器名を紹介すると、前列左の太太鼓はオオカワ。その右の小太鼓はシラベ。後列左の鉦はヨスケ、笛はトンビという。

ところで、一九二九（昭和四）年生まれの男性が若い頃、お囃子の稽古といえは、シラベとトンビを習うことだったといひます。シラベの稽古では、荒縄を巻いた孟宗竹の前に十人位が横並びし、撥は適当なものを見つけ、トコトントン……ストントンントン……という具合に掛け声をかけて行ないました。また、トンビはお



写真3 平成8年2月10日、囃子連中の内輪の新年会。「今年もみなさんに楽しんでもらいましょう」と結束を固める。

囃子をリードする役目があるので、稽古にはより一層力が入りました。それに比べてオオカワは、合の手に入れる程度のもので特別に習うということはなかったようです。しかし、囃子のなかで叩いていいところとそうでないところがありましたので、それを守った上で、実際の演奏の時にアドリブを入れる達人もいたようです。聞けば聞くほど、お囃子の世界は奥が深いようです。

### お祝いの席では景気をつけます

神社の祭礼でお囃子をやる以外に、富士元囃子の方々は、お祝いの席によく呼ばれます。昔から、結婚披露宴や上棟式、各種記念式典などにはよく呼ばれました。そのような時には、囃子はもちろんのこと、写真3にあるような色物（寿獅子、火男踊り、大黒舞等）を演じて景気をつけます。最近では、郷土芸能大会や施設の開園式、そして老人ホームへの訪問も行っています。囃子の方々はそれぞれ仕事を持っていますが、毎週木曜日には集まって稽古を行ない、芸の上達に努めておられます。

ところで、このお囃子はどうして富士元囃子というのでしょうか。このことについては、かつての長崎村の富士講の存在をぬきに考えることはできません。地域社会と祭礼の関係についての歴史的な問題でもありますので、また、別の機会です詳しく紹介したいと思ひます。（福岡）

### 郷土資料館なんでもQ&A

**Q** 巢鴨の庚申塚から大塚駅へ向かう道を折戸通りといひますが、なぜこのような名前がついたのでしょうか。

**A** 折戸通りは、二質問の通り確かに珍しい名前前の通りです。道そのものはかなり古くからある道で、享和一（一八一〇）年の「豊島郡巢鴨村図」には現在の道と同じ場所に描かれていて、江戸時代からあった道であることは確実です。

絵図の註記には、庚申塚を境にして北が王子道、南が大塚道と記されていて、折戸通りとは出てきません。嘉永七（一八五四）年の尾張屋版の江戸切絵図「染井王子巢鴨辺絵図」では、庚申塚を起点にして北が岩屋弁天道、南が大塚波切不動道と記載されています。岩屋弁天は王子の音無川沿いの金剛寺境内にあり、また波切不動は文京区の大塚三丁目の交差点附近にあった通玄院のことになり、どちらも江戸時代に庶民の信仰を集めた寺です。

この道は中山道から庚申塚で分岐して王子・小石川方面をつなぐ道として江戸時代からかなり重要な交通路となっていたことが知られ、また信仰の道として多くの人が利用した道でした。しかし、名前の由来については残念ながらはっきりしたことはわかりません。庚申塚の堂が折戸（片開きの戸）になっていて、そこから通りが始まっていたからという言い伝えもありますがよくわかりません。なにが情報がありますしたら郷土資料館に御連絡頂ければ幸いです。（小林）

新書贈書籍紹介  
『清き流れに——都立第十高女七回生の記録——』（都立第十高女七回生文集をつくる会編集）

この本は都立第十高等女学校（現豊島高校）七回生が「戦後五〇年」を記念して刊行されたもので、各人の回想を中心に編集されています。

七回生の方々は一九二九（昭和四）年、世界大恐慌の年に生まれ、日中戦争のなかで成長し、一九四二年四月（アジア太平洋戦争開始の翌年）、同校に入学しました。そして、戦争の影響が深刻になり、空襲が激化するなかで高女生活を送り、四年生で敗戦、四六年ないし四七年に卒業、戦後の日本再建の中軸となつて働かれました。回想はこうした時期を生き抜いて来た方ならぬのでは思いで満ちています。それは苦難の回顧のみではなく、この体験をもとにした平和と生への希求が基礎になつて

いるように思います。

グラビア  
にある「当時の女学生生活から」

とのイラスト  
ト付の説明



が「通学風景 第十のセーラー服に憧れたのに、私達の年から全国統一の制服になった」（左上の図）に始まるのは高女生活の先行きを象徴しているようです。四三年には「英語の教科書は、『一番後列の者が集めて前へ提出』の一言で、教科書の中から姿を消し」ます（二六頁）。やがて、勤労動員の開始で学校の授業そのものがなくなつていきます。

本格的な空襲。火の中を逃げまどい、たどり着いた荒川で「恐らくこの頃は葉桜になっていた筈なのに、想い出の中では桜が満開なのである」（二七頁）という記憶の不思議。「疎開先で弟は一人ぼっちで急死」したという回想もあります（二二頁）。七回生の中からも地方に疎開し、転校する人が相次ぎます。しかし、疎開先でも勤労動員の日々、さらには「東京で空襲に遭う前にと疎開したのに、かえつて疎開先の山梨で空襲に遭った」（二七頁）ような例はほとんどのところでみられたのです。

日本化工十条工場・中外製薬高田工場・学校工場（日本マグネシウム）の三か所に分かれての慣れない作業は、粉塵にまみれ空襲警報に追われ空腹をかかえてのものでした。（工場動員に

ついての調査とアンケートは貴重な資料です）。敗戦に泣きながら「一方では、正直なところ私はほっとしていました」（五九頁）。

「軍国少女」の戦争一色の生活の中でも、合唱を楽しみ、文学全集を回し読みし、避難した防空壕でトランプで遊ぶ（それは恐怖をまぎらわすため）。また、年一回の全校学芸会で衣装を着けることが禁じられていたにもかかわらず「これが最後になるかもしれないから」と無断で衣装を集め強行し、先生や先輩たちもそれを追認します。みんな、「明日の命の保障のない今を悔なく生きたい気持ちで一杯」（九九頁）だったので。

この思いは戦後の生きかたを語る部分からも強く伝わっています。

\* \* \*

なお、第十高女では五回生の方の文集『回想 都立第十高女勤労動員のころ』（一九九三年発行）もあります。



空襲警報が鳴ると、ソレツと学校から500メートルほどはなれた横穴式防空壕に避難。

# 地域史講座のおしらせ

## 江戸・東原のまちづくりの歴史

近年、まちづくりや「土木遺産」保存の動きが各地にみられ、世間の関心を集めています。郷土資料館では、江戸・東京のまちづくりの歴史を、豊島区を中心に講義とフィールドワークで探究していきます。普段あまり馴染みがないけれど、生活に深い関わりをもつ「土木」の視点から、東京・豊島区地域の歴史を再発見してみませんか。

◇日時・内容：下表のとおり◇会場：全6回とも豊島区立勤労福祉会館第6会議室（豊島区西池袋二―三―七―四）に集合◇定員：50名（電話受付・先着順）◇費用：二百円◇申込・詳細：当館まで

(横山)



	日時	テーマ	講師
1	7/3 (水) PM6:30~8:30	入門講座① 江戸のまちづくり	千葉大学工学部教授 玉井 哲雄 氏
2	7/11 (木) PM6:30~8:30	豊島区探訪① 遺跡にみる江戸近郊	豊島区生涯学習課文化財係 学芸員 橋口 定志 氏
3	7/14 (日) PM2:00~4:00	入門講座② 江戸・東京の下水道	東京都下水道局、日本下水道文化研究会 栗田 彰 氏
4	7/21 (日) AM9:00~12:00	豊島区探訪② フィールドワーク/川・下水道編	東京都下水道局 栗田彰氏 当館学芸員 横山恵美
5	7/26 (金) PM6:30~8:30	入門講座③ 東京の都市計画と土木遺産	日本大学理工学部教授 伊東 孝 氏
6	7/28 (日) AM9:00~12:00	豊島区探訪③ フィールドワーク/橋・トンネル編	J R東日本 賛田秀世 氏 当館学芸員 横山 恵美

### 編集後記

◆今年も梅雨の季節を迎えましたが、いかがが過ぎでしょうか。今年度最初のかたりべ42号をお届けいたします。

ここ数年続いた不況の影響で、豊島区の財政状況は年々悪化し、郷土資料館も予算の削減を余儀なくされてきましたが、ついに「かたりべ」も今年度から頁数を縮小せざるをえなくなり、発行回数はいよいよ減りました。発行回数はこれまで通り年4回(季刊)ですが、4頁立て2回と8頁立て2回の発行に変わります。そのため掲載する記事も若干変更いたします。15回(しぶとく)続いていた特集「新館設立に向けて」は今回はお休みします。また連載「一点の資料から」と新連載「豊島をさぐる」も不定期の連載となります。いつも「かたりべ」をご愛読いただいている皆さんには、少々もの足りないかもしれませんが、好評の(?)の4コマ漫画は健在ですので、これからもひきつづきご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

◆9月からの特別展も着々と調査と準備を進めています。また7月の地域史講座に続き、8月には恒例の戦争体験継承講座を開催いたします。どうぞご期待ください。

◆資料のくん蒸および展示替えのため、6月22日から28日まで休館します。(Y)

かたりべ

No.42

1996年6月20日

豊島区立郷土資料館

豊島区西池袋2-37-4

電話03-3980-2351

豊島区広報印刷物L30-07-073  
本紙は再生紙を使用しています